



本郷中学校だより

令和4年度
第9号

令和5年1月23日発行 横浜市立本郷中学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/hongo/>

【学校教育目標】 自ら学び ひとつつながり しなやかに未来を拓く人

【学校スローガン】 あ（挨拶） せ（清掃） か（感謝） け（けじめ）

保護者の皆様による学校評価アンケート

校長 湊 浩一

あけましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

さて、お忙しい中、保護者の皆様にご協力いただいた「学校評価アンケート」がまとまりましたので、お知らせします。毎年4月にお示しする「令和4-6年度版 中期学校経営方針」を見直す年度のため、重点取組分野を見直しました。そのため、ここ数年取り組んできました経年変化を見られる設問が少なくなっていました。ご了承ください。

そして、アンケート結果を読み解き、簡単ではありますが考察をつけさせていただきました。また、紙面の関係ですべてはご紹介できませんが、お寄せいただいたご意見にできるかぎり回答をつけさせていただきました。お時間がありましたら、あわせてお読みください。

引き続き、アンケート結果やご意見等を参考にして、来年度以降の本校教育活動をよりよいものにしていきたいと考えています。そのためにも、年1回ではありますが保護者の皆様からいただく「学校評価」は貴重な資料となります。ご協力、誠にありがとうございました。

§1、保護者の皆様による「学校評価アンケート」の結果

1：よくあてはまる 2：ややあてはまる（1+2=概ね満足） 3：あまりあてはまらない 4：全くあてはまらない 5：わからない

1、子どもは、主体的に授業や学習に取り組み、知識や技能を身につけようとしている。

子どもは、思考力・判断力・表現力を働かせ、自らの課題を解決しようとしている。

1：25.4% 2：55.1% (80.5%) 3：11.0% 4：1.7% 5：6.8%

2、子どもは、「あせかけ」を生活規律とし、当たり前が当たり前できるようにしている。

子どもは、元気にあいさつすることができ、地域（の人）とも積極的に関わろうとしている。

1：16.9% 2：56.9% (73.8%) 3：18.6% 4：1.7% 5：5.9%

3、子どもは、保健体育の授業（ランニング・ラジオ体操・補強運動等）を通して、体力が向上した。

子どもは、学校保健活動を通して、心身の健康の大切さを理解し実践することができた。

1：16.9% 2：55.2% (72.1%) 3：17.8% 4：0.8% 5：9.3%

4、子どもは、自他の人権を尊重し、偏見や差別を許さず互いの尊厳を受け入れることができている。

子どもは、年齢・性別・国籍の違いや障害の有無に関わらない、しなやかな多様性をもっている。

1：39.8% 2：49.2% (89.0%) 3：5.9% 4：0.0% 5：5.1%

5、子どもは、本郷中において、安心して豊かに充実した学校生活を送ることができている。

本郷中は、いじめに対して生徒に寄り添うとともに、毅然とした姿勢で事案に対応している。

1 : 36.4% 2 : 48.4% (84.8%) 3 : 9.3% 4 : 5.9% 5 : 0.0%

6、本郷中は、学習室を開設し不登校生徒の登校と学習を支援している。

本郷中は、SCやSSWと協働し、不登校生徒の困り感と外的要因の解消に努めている。

1 : 11.0% 2 : 31.4% (42.4%) 3 : 9.3% 4 : 1.7% 5 : 46.6%

7、子どもは、困ったことや悩みごとがあれば、教員やSCに相談することができる。

本郷中は、相談活動を通して生徒理解に努め、迅速で包括的な問題解決に務めている。

1 : 20.3% 2 : 43.2% (63.5%) 3 : 15.3% 4 : 1.7% 5 : 19.5%

8、本郷中は、保護者や地域に開かれた学校づくりのために、学校ホームページを活用するとともに、「学校だより」や「輝けとわに」を発行するなど情報の発信に努めている。

R4 1 : 66.2% 2 : 25.4% (91.6%) 3 : 5.9% 4 : 0.0% 5 : 2.5%

R3 1 : 66.7% 2 : 31.2% (97.9%) 3 : 0.5% 4 : 0.5% 5 : 1.0%

§ 2、考察

正しく経年変化を見られるのはNo.8だけですが、大きく評価を下げてしまいました。他の設問は正確には比べられないのですが、全体的に厳しい評価になったと受け止めています。理由のひとつは、保護者の皆様が本校の教育活動をご覧いただく機会が増えたことだと考えています。昨年までは、多くの設問に対して5番「わからない」を選ぶ方が数多くいらっしゃいましたが、No.6と7を除いては大幅に減少しました。そのため、評価が標準化されたと考えています。ここをスタートに、教育活動の改善に取り組んでいきたいと思っています。また、ウイズコロナの時代を迎え、学校教育に求めるものも多様化してきたことも影響したかもしれません。1人1台端末の導入をはじめ、10年かけてやるのがコロナ対策のため短期間で実施ということが続きました。そのため、学校教育が大きな転換点を迎えているという現状も理由かもしれません。

さて、概ね満足(1+2)の評価が80%以上を及第点と考えています。そこで、残念ながらそれを下回ってしまった4つの設問項目を、まずは読み解いていきたいと思えます。

No.2の学校スローガン「あせかけ」の浸透が74%という数字は、とても残念でした。ただ、「生徒による学校評価」では83%が意識した生活を送っていると回答しています。引き続き、生きていくベースとして、当たり前前のことが当たり前前にできる生徒の育成に努めていきます。

No.3の体力向上と心身の健康管理については、担当部署と検討し改善を図っていきたいと考えています。コロナ禍による体力低下は、全国的な課題だと認識しています。心の体力低下(メンタルの不調)を訴える生徒も少なくありません。特に、3年生の皆さんは様々な場面で活動制限を強いられてきたため、このような数字になったのではないかと考えています。

No.6とNo.7については、この数字でいいのかもしれないと思い始めています。不登校支援や困り感の解消など、多くの方に理解してもらえるよう努力してきましたが、当事者にならないと回答できない設問なのかもしれません。しかし、「誰もが安心して豊かに学べる」学校づくりが公立学校の使命です。そのため、これらの項目には、来年度も継続して取り組んでいきます。

また、80%を上回った4つの設問項目については、現状に甘んずることなく90%を目指して学校全体で取り組んでいきたいと思えます。唯一90%を越えたNo.8は、昨年度の数字がバブルだったと考えています。92%は高い評価をいただいたと感謝しています。

§ 3、ご意見（自由記述）への回答

保護者の皆様から貴重なご意見をいただきました。昨年度は紹介だけでしたが、今年度は簡単ですがコメントを添えて回答させていただこうと思います。保護者の皆様の忌憚ないご意見は、学校を改善させるための力となります。例えばですが、「『輝けとはに』 いらない」が昨年度よりも1つ増え2つになりましたが、僕にとっては心して書かなければという戒めになります。その一方、『輝けとはに』を評価するご意見も多少ですが寄せられています。また、No.8の92%はこれを評価していただいた数字も入っているだろうと考えています。心苦しいのですが、もうしばらく発行させていただきたいと思います。勝手ですが、まげてご了承いただければ幸いです。

まず、「本郷中は成績の付け方が厳しいと聞きました。近隣校なら無理なく4取れるレベルでも3しか取れないなど。厳しい方がいいと思う反面、全てを緩くするのは良いとは思いませんが、数点の差で行ける高校の範囲は大きく変わります。その範囲、子どもたちの希望を広げるためにも、近隣校と同レベルになったらいいなと思います。」というご意見をいただきました。栄区中学校教育研究会のまとめを仰せつかっています。そのため、昨年度ですが栄区内公立中学校6校の成績を調査しました。ごくわずかのばらつきはあるものの、6校の評定は妥当だと認識しています。塾の情報なのかもしれませんが、本校の評価は決して厳しいものではありません。ですから、近隣校で4、本郷で3ということはありません。「もっと成績つけ甘めに！w」というご意見もいただきましたが、同様に本校だけということではできません。ご理解ください。

次に、「お世話になっております。感染症対策等イレギュラーな対応に苦慮されていることと思い、先生方には感謝しております。しかしながら、教育活動には少し疑問を感じています。授業は塾任せのように感じられますし、「走るな」の下を疾走する先生のお姿を目にしますと、子どもにルールを守れと言っても無理だろうなと思ってしまいます。学校がというよりは市や国の方針もあるのですが、10分で着替えを済ませ50分の授業で行う水泳の授業や15分で済ませる昼食などあまりにもゆとりがなくて気の毒に思います。」というご意見を頂戴しました。塾任せという言葉には抵抗を感じますが、多くの子どもたちが塾に通っている現状は教員の1人として憂えています。ただ、塾任せにしていけないことは、理解していただきたいと思いました。それ以外はそのとおりかもしれません。下校時刻から逆算すると、どうしてもこのような時程になってしまいます。「走るな」の下を走っているのは僕なのかもしれません。

もう1つは、「起立性調節障害」についてご意見をいただきました。「朝から辛い思いをしながら一生懸命支度をし、どうにか登校しようと頑張っている事を学校側が理解していない為、親子共々辛い毎日を過ごしています。起立性調節障害は中高生の10%が発症すると言われてるれっきとした病気です。教職員、学校全体がもう少しこの病気を学び理解し対応すべきではないでしょうか？」と書かれていました。このような思いをさせてしまったことを遺憾に思っています。できるだけ早く、市教委とも連携し校内研修等を実施し、理解と対応法を学びたいと考えています。辛い思いをさせてしまいましたこと、誠に申し訳ありませんでした。

さらにもう1つ、「生徒に対する接し方が目に余る先生がいる」や「授業を真剣に教えてほしいです」というご意見もいただいています。このようなことがないよう、教育公務員としての使命については指導しています。また、使命をしっかりと果していると認識しているところです。しかし、このように感じられた保護者の方がいらっしゃるという事実を重く受け止め、そのようなことはないということを明日からの教育活動で示していきたいと考えています。

最後に、本校の教育活動に対する感謝も多数いただいています。「子どもが毎日登校できているのは先生方のおかげです」や「部活動、放課後に朝練と熱心な指導をしていただき感謝しています」等々が寄せられています。元気をいただきました。ありがとうございます。